

市民防災リーダーとは ～自主防災組織のリーダー～

災害時において、近隣住民の先頭に立って防災活動を行うのが「市民防災リーダー」です。

市民防災リーダーとは？

災害時において消防など公的機関が災害現場に到着し、災害活動に着手するまでの間、近隣住民の先頭に立って防災活動を行うのが「市民防災リーダー」です。

市民防災リーダーは、その活動を義務付けられたり、拘束されるものではありません。

自分ができることを可能な範囲内で活動していただくものです。



市民防災リーダーの役割

市民防災リーダーの役割として次のようなことが考えられます。
※あくまで役割の一例です。

【災害時】

- ◇隣近所の初期消火・救助活動
- ◇負傷者の応急手当・搬送
- ◇近隣地域への応援要請や活動支援
- ◇住民の避難誘導
- ◇自警パトロール
- ◇要援護者の生活支援
- ◇炊き出し など

【平時】

- ◇防災訓練の積極的推進、防災意識の普及・啓発
- ◇近隣地域の危険箇所の把握、災害時の被害想定、またその対策の検討
- ◇区役所・消防署等行政とのパイプ役
- ◇防災訓練の企画や訓練指導など

市民防災リーダーに求められるもの

●市民防災リーダーの心構え

消防署等で実施している「市民防災リーダー研修」を受講したらすぐにリーダーとして活躍できるものでもありません。

リーダー研修では、時間の都合もあり、基本的な事柄を中心に学びます。

地域に戻られたら、地域の皆様と一緒にこのテキストに載っているような訓練を実施し、災害に備えるようにしましょう。

また、災害時や訓練時はコミュニケーションを大切に、感染防止対策や要援護者への配慮ができるよう努めていきましょう。

実際に訓練の指導をやってみましょう！

得意な分野を身に付ける

まずは、自分が得意となるものを身に付けましょう。

- ◎消火器の使い方の指導
- ◎三角巾によるケガの手当ての指導
- ◎バケツリレーの要領
- ◎心肺蘇生法の指導
- ◎炊き出し訓練の要領 など

指導方法を身に付ける

指導するためには、まず自分自身がその内容を十分理解する必要があります。

- ◎テキストから学ぶ
- ◎他の指導者から学ぶ
- ◎実際にやってみる（実技）
- ◎何度も繰り返し練習する
- ◎そして、実際に指導してみる！

●教え方のコツとは？

- ◇まず最初は自己紹介から
- ◇指導前に、今から何をするのか、内容を説明しましょう。
- ◇今から行う訓練をやったことがある人がいるか確認しましょう。
（ぜひ手伝ってもらいましょう！）
- ◇口で説明するよりもぜひ体験！
（体で覚えてもらいましょう）
- ◇質問タイムは、理解を深めるためにもとても大切な時間です！
（分からないことがあれば調べて後日答えましょう。消防職員に聞いてもいいでしょう）
- ◇最後にワンポイントアドバイス
（訓練の最後に、家庭でも役立つようなアドバイス等があれば、参加者にも喜ばれます）

みんなで手分けして指導しよう

一人の防災リーダーが、すべての事を理解して指導する必要はありません。
それぞれの得意分野を生かして分担して指導することで個人の負担も減り、また、いろいろな人が指導的役割を担ってもらうことで、活動の幅も広がり、活動もより活発になることでしょう。

